

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	有田町立大山小学校
1 前年度 評価結果の概要	○本校の教育活動への保護者や地域の関心が高く、期待が大きいことが、自由記述欄への意見などにより窺うことができる。また、保護者や児童へのアンケート結果から、本校の今年度重点的目標はほぼ達成できたと考える。特に、タブレットを活用したオンライン学習は保護者に好評であった。 ○来年度も、ふるさと大山を誇りに思う児童の育成を目指し、地域に開かれた学校として、コミュニティ・スクールを活用し、地域や保護者との連携が密になるように情報を発信したり、地域との連携行事に取り組んでいきたい。また、本校教育目標を柱に、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざし、児童一人一人を大切に教育を進め、実態に応じた学力の向上、道徳教育の推進、健康・体力作り等にさらに力を入れていきたい。また、タブレットを活用したICT利活用教育の推進に努めていきたい。
2 学校教育目標	「おおいに学び やさしく まっすぐ伸びる」大山っ子の育成 ～「知・徳・体のバランスの取れた児童の育成」～
3 本年度の重点目標	1 学力の向上…①校内研究：主体的に学ぶ授業の創造（4年次）～自分の考えをもち、表現する力を育てる算数科学習指導の工夫～②ICT利活用の工夫 2 心の教育の充実…①人権・同和教育の推進…自尊感情を向上②「特別の教科道徳」と特別活動を絡めながら行う教育活動の充実③いじめの未然防止、不登校傾向への対応④児童一人一人の特性に応じた教育活動の充実と保護者や関係機関との連携 3 健康安全教育の充実…①体力の形成と運動能力の向上を図る運動環境の充実②「危機に強い学校」の構築

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマプランの成果指標を達成した教師85%以上	・学習状況調査結果の分析を行い、児童のつまずきや授業改善のポイントを明らかにし、授業実践に活かしていく。	A	・学習状況調査の分析の研修会を全職員で行い、100%の職員が個別学習や補充学習に尽力している。「12月調査」の結果は、4.5年生の全教科で県の平均以上の結果を出すことができた。「マプランの成果指標を達成できた」と自己申告する教師は90%であった。	A	・今年度も、県の平均を上回るもしくはそれ相応の結果であったことは、とてもよいことである。さらに伸びることを期待している。	教務部	
	○「西部型授業」の学習過程を基本として、校内研究の算数科だけでなく他教科においても、自分の考えを活動や考えを深め広げる対話活動を取り入れる。	○「書く活動で自分の考えを深め広げることができた」対話活動で自分の考えを深め広げることができた。実感する児童の割合が75%。○書く活動や対話活動を算数科だけでなく他教科でも取り入れることができた。回答する教師の割合が85%。○「授業が分かる」と回答した児童の割合が85%以上	○「西部型授業」の学習過程を基本とし、「対話活動」の場を確実に設定する。 ・授業が「学力向上タイム」を効果的に活用し、基礎学力の向上に努める。 ・新出の言葉は、その学年で必ず指導する。 ・生活に結び付け、日常の具体的な場面に対応させながら学習をすすめていく。	・「書く活動」の学習過程を基本とし、「対話活動」の場を確実に設定する。 ・個人差に対応した学習指導を行った。 ・生活と結びつける学習・具体物を使った取り組み、立式と図や線分図、数直線を結びつける学習を工夫することができた。 ・「授業が分かる」と回答した児童の割合は、89.3%で、保護者も90.9%であった。	A	・個人差に対応した学習指導を行った。 ・生活と結びつける学習・具体物を使った取り組み、立式と図や線分図、数直線を結びつける学習を工夫することができた。 ・「授業が分かる」と回答した児童の割合は、89.3%で、保護者も90.9%であった。	A	・「授業が分かる」と回答した児童の割合が、年間通じて90%前後であったことはよかった。さらに、家庭学習でも、子どもが自分から進んで学習するよう指導してもらいたい。 ・探究心がよくなるような、Chromebookの活用がよくなされている。	教務部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分と他人との違いを認め、「自分や友だちのよさを見つけられることができる」と85%以上の児童が感じることができる。	・道徳の時間の充実に努め、「考える道徳」の実践を継続する。 ・「Q-U」を分析し、学級の実態を捉え、個に応じた指導を充実させる。	・道徳の時間の充実に努め、「考える道徳」の実践を継続する。 ・「Q-U」を分析し、学級の実態を捉え、個に応じた指導を充実させる。	A	・様々な活動で振り返りの活動を行い、できたことを称賛しあっていた。「自分や友だちの良さを見つけられる」児童が88.3%であった。	A	・「自分や友だちの良さを見つけられる」児童が88.3%というのは、大変喜ばしいことである。これからは是非尽力してほしい。	道徳教育推進部 特活部
●心の教育	○いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○日々の観察や児童とのコミュニケーションを強化し、保護者やスクールカウンセラーとの連携を図る。	・定期的にいじめ調査(職員・児童・保護者)を行い、実態把握に努める。 ・週1回の連絡会で、気になる児童の情報共有を行い、組織として対応する。	A	・いじめ調査と心のアンケートの実施、普段の観察等の強化で、いじめの未然防止、早期発見・対応ができた。「友だちの気持ちを考えて行動できる」児童は94.5%であった。	B	・「友だちの気持ちを考えて行動できる」児童が94.5%というのは、すばらしいことである。是非継続してほしい。 ・いじめを発見した時に、大人に伝えるなど解決する意識を持たせて欲しい。また、児童に当事者意識を持たせる指導に力を入れてもらいたい。	教頭 教育相談	
	◎志を高める教育	◎「将来の夢や希望、目標をもっている。」に肯定的に回答が85%以上とする。	・キャリアパスポートを活用し、将来への目標意識を育て、自信や誇りを高める。	A	・「自らの夢をもち、その夢や目標の実現に向けて努力したい」と考えている児童が91.9%であった。具体的取組が功を奏した。	A	・「自らの夢をもち、その夢や目標の実現に向けて努力したい」と考えている児童が91.9%というのは、大変嬉しいことである。地域として我々も応援していきたい。	教務部	
	○健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」 ◎「安全に関する資質・能力の育成」	②本校生徒指導重点目標「挨拶」「たてわり掃除と集団登校」「学校のきまり遵守」ができた児童を90%以上にする。 ②朝食摂取率90%以上を目指す、保護者への啓発活動を行う。 ◎児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・生活のめあての内容を、毎月の重点指導内容に位置づけたり、良好項目については随時承認・称賛したりする。 ・年間2回「おにぎり弁当の日」を設定し、家族で「食」を考える機会を設ける。 ・避難訓練、防犯教室、交通安全教室等を実施する。 ・安心、安全な学校づくりに努める。	A	・要生活指導事項は、その都度指導した。達成率は教師が、93.3%で、児童が「挨拶」89.8%、「たてわり掃除」93.9%、「集団登校」82.8%、「学校規則遵守」93.4%だった。 ・「おにぎり弁当の日」で、家族で「食」を考える機会を設け、朝食摂取率は、80.8%だった。 ・児童の交通事故は、0(ゼロ)だった。教師も0(ゼロ)であった。	A	・「挨拶」89.8%は、とてもよいことである。朝、交通指導で立っていると、あいさつで呼びかけてくれる子ども多い。あいさつの子の調子が分かることもある。引き続き「笑顔であいさつ」を心がけて続けてほしい。 ・親が朝食を摂らせられない家庭への指導は、是非行ってほしい。	生活部
○業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体力の向上及び運動能力の育成	○「進んで運動に取り組んでいる」と回答する児童の割合を85%以上にする。	・「朝の運動」「みんなで遊ぶ日」を設定したり、持久走やなわとびカードを配布(活用)したりして、外遊びや運動を奨励する。	B	・「進んで運動に取り組んでいる」と回答する児童は、74.1%で、教師が体育の授業で体力向上を目指しているのは93.3%であった。	B	・学校は、いろいろと工夫してくれたと感じる。 ・体育の授業やその他の活動を通して、子どもたちへの指導を継続して欲しい。	保体部	
	○業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限を遵守する。	・稼業日平日は、18時までで、定時退勤日(毎週金曜日)は、17時半までに全員帰宅の、確実な実施を行う。 ・稼業月時間外勤務40時間以内実施。	A	・具体的取組は、概ね達成できた。「働き方改革」を意識し、効率的な業務の遂行を心掛けている」と回答した教職員は86.6%であった。	A	・学校の「働き方改革」の取組が、少しずつ地域にも浸透していつている。保護者や地域の理解も非常に大切である。	教頭 教務部	
	○学校運営組織力の向上	○組織体制の効率化と機能の強化と会議や事務の効率化、校務の効率化。	・会議時間の設定や資料の事前配布等を確実に実行。 ・主に企画委員会で行事・企画を精査し、組織的に活動しやすい環境整備。	・会議時間の設定や資料の事前配布等を確実に実行。 ・主に企画委員会で行事・企画を精査し、組織的に活動しやすい環境整備。	A	・会議資料のデジタル化を実施することで、会議の効率化を図ることができた。・級外職員の担任への協力・支援は、組織的に行われた。特に、児童の個別対応には、担任と級外職員、教育支援3名との連携がスムーズであった。	A	・学校と一緒にやっていくという保護者や地域の自覚が、さらに必要だと思う。	教務部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○地域の人的・物的資源の活用	○継続的・系統的に計画された教育活動の中で育成するふるさとへの誇りを、主体的に行動できる力を育成する。	○「ふるさと大山にほこりをもち、大山地区のことが好きである。」と考えている児童を90%以上にする。	・地域からゲストティーチャーを招き、体験活動を通した学びを充実させることでふるさとを愛する心を育てる。	A	・「意欲的に地域に学ぶことができた」と回答した児童は、91.4%であった。徐々にコロナ禍前の状況に戻りつつある。地域の方々に、温かく協力していただいたおかげである。	A	・「意欲的に地域に学ぶことができた」と回答した児童が91.4%とは、とてもよいことである。コロナ禍だったが、可能な範囲ながら、協力し、子どもたちの笑顔が見られたのはよかった。 ・年間計画表を早期に作成し、充実した取組につなげて欲しい。	教務部	
○保護者との連携	○保護者の思いや願いへの対応	○「学校は、保護者の相談や要望に誠実に対応している」と実感する保護者の割合を90%以上にする。 ○「学校はよく情報を伝えており学校の様子がよく分かる」と回答する保護者の割合を85%以上にする。	・学校HPの充実 ・学校・学級・保健などの通信を定期的に行う。	B	・こまめにメール配信、通信の発行、さらにはHPの充実を図ったことで、学校の様子を発信することができた。 ・「学校は、保護者の相談や要望に誠実に対応している」と実感する保護者は84.1%であった。	A	・達成率が84.1%は、すばらしいことである。保護者の願いや要望等について、学校が「迅速・誠実・丁寧」を念頭に、取り組んできた成果だろう。 ・学校復旧や学級通信、日々の連絡等での連絡を丁寧に行っているからだろう。これからは継続して保護者・地域との連携を深めていってほしい。	教務部	
○特別支援教育の充実	○個に応じた支援体制の充実と教員の専門性、認識の向上	○「特別支援に関する理解が深まった。」と回答する教員を80%以上にする。	・専門性の高い講師による職員研修の実施。 ・事案に応じた関係職員の情報共有。 ・外部専門機関との連携。	A	・各児童ごとに作成した個別の支援計画をもとに、児童の実態に応じて校内支援会を随時開催し、児童理解をすることができた。 ・長期休業中に全職員で講師を招聘しての職員研修を実施したことで、特別支援教育に対する理解が深まった。	A	・今後も個に応じた支援体制を充実させていってほしい。	教務部	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	・本校の教育活動への、保護者や地域の関心が高く、期待が大きいことが、保護者や児童へのアンケート結果から分かった。学習指導への評価は概ね達成できたか、個別への相談体制の充実がこれからの課題であると考えている。 ・来年度も地域に開かれた学校として、コミュニティ・スクールを活用し、適切に情報を発信し、地域に学ぶ教育の推進に努めたい。本校教育目標を柱に、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざし、児童一人一人を大切に教育を進め、実態に応じた学力の向上、道徳教育の推進、健康・体力作り等にさらに力を入れていきたい。また、さらに共通理解・共通実践できる体制を、全職員で整えていきたい。								